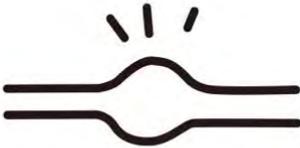
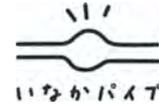


い
な
か

い
な
か
パ
イ
プ
と
か
い



一般社団法人いなかパイプ
株式会社いなかパイプ

設立 2011年（社団）・2018年（株式）

拠点 高知県四万十市・四万十町



私たちが目指していること

なくしたくない「いなか産業」をつなぐ（なくさない）

私たちの役割

「いなか」と「とかい」の、「いなか」と「いなか」の、「いま」と「みらい」のパイプ役

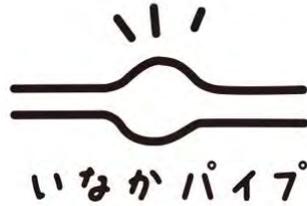
HOKUBAN

もともとわたしたちが住んでいたエリアは西土佐村・十和村・大正町の三町村で北幡（ほくばん）と呼ばれる地域でした。その後、平成の大合併で十和村と大正町は四万十町になり、西土佐村は四万十市になりました。



過疎地域
中山間地域
条件不利地域

い
な
か



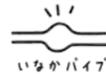
地理的条件・産業構造・人口分布を要因とした地域課題

【過疎・中山間・条件不利地域の事業者】
四万十川中流域 北幡の事業者
(旧・十和村、旧・大正町、旧・西土佐村)



- 中山間・条件不利地域であるが故の人口流出→人口減少→過疎化
- 稼ぎたくても稼ぎにくい一次産業
その上、条件不利地域であるが故の事業展開の難しさ→低賃金労働
- 過疎地域63%の国土に、日本国人口の9%しか暮らしていない故の過疎地域の課題は国民からしたら他人事。

いなかの現状



高齢化・人口流出により、人手不足…



➡ 産業衰退

このままでは「いなか」がなくなってしまう…!

いなかの事例①

茶畑の風景を残したい
岡峯さん



実は茶どころの四万十。お茶を作り続けて30年。静岡のお茶に混ぜられる良いお茶だった四万十緑茶を、自分たちのお茶として売っていきたくてオリジナルブランドをつくりお茶の生産・販売を行ってきた。

ところが、ペットボトルの発達とともに、家でお茶が飲まれなくなり、お茶文化は衰退。同時にお茶の価格は下がり、お茶生産をやめていく農家が増えている。

そんな中、茶畑のある風景をこの地域で残し続けるために、お茶の無農薬・有機栽培に取り組み、緑茶・ほうじ茶・紅茶の商品づくりに取り組んでいる。

そんな地域のアイデンティティである四万十茶を、岡峯さんと一緒につないでいきたいから。いなかパイプはそのお手伝いをします。

いなかの事例②

1400年の歴史がある
切山集落と自然卵を
残したい参鍋さん



愛媛・四国中央市の山の上にある切山集落。平家の末裔たちが1400年地域を守り続けている。しかし、集落はもう20世帯あまり、平均年齢70歳の限界集落。

そんな地域で区長をやりながら、夫婦で自然卵養鶏を行なっている参鍋さん。つくっている卵は、爪楊枝を10本刺しても割れないくらい卵黄と弾力ある卵白で、本当に美味しく、薬などは一切使っていないから安心安全。

やりたい人がいるならこの事業を渡してもいい、そしてこの地域をなんとか残していきたい。そんな思いから相談。

人材募集からはじまって、若者が見つかり、帰ってこないと言っていた息子も帰ってきて！でもお金がないから雇いたいけど雇えない〜と悩んだけど、クラウドファンディングも大成功！ 諦めなくてよかったと一安心。

経営を若者たちにバトンタッチして、いなかパイプもサポートしつつ、次のステージを進行中！

いなかを残したい事業者さんのために
いなかパイプは活動しています。

いなかの事例③

大正時代から続く宗田節と
出汁文化を残したい
島谷さん

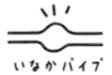


高知の西の端・土佐清水市にある大正時代から続く宗田節製造元。その娘さんと結婚した大阪出身の島谷さん。

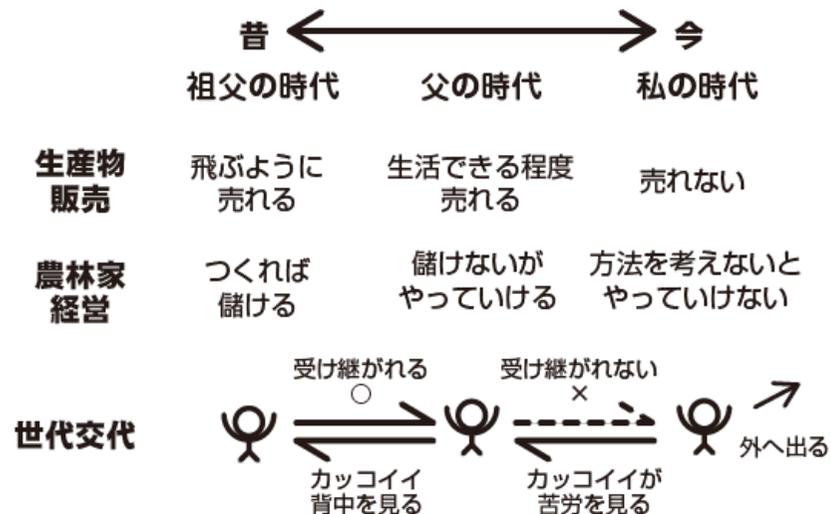
化学調味料をつくる会社で働いていたけれど、宗田節一つで調味料になる価値を感じ、その出汁文化をつないでいきたいと3年前に家族で土佐清水に戻る。

宗田節製造現場は、平均年齢70歳のパートのおばちゃんたちが支えている現場。求人をかけて雇っても地元の人には続かない。未来のために若い人を雇いたい！
また原料となる魚の量も減ってきているから、新しい取り組みを考えやっつけていかないといけない！

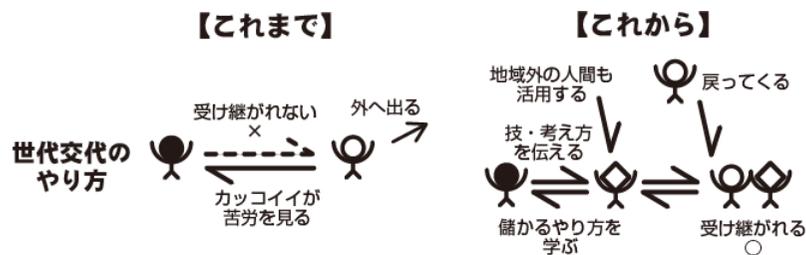
さらに家族経営ゆえの経営体制の弱さもあり、それら経営課題を改善させていくためにも、いなかパイプを通じて、組織に新しい人材を入れ、組織課題改善にむけて奮闘中！



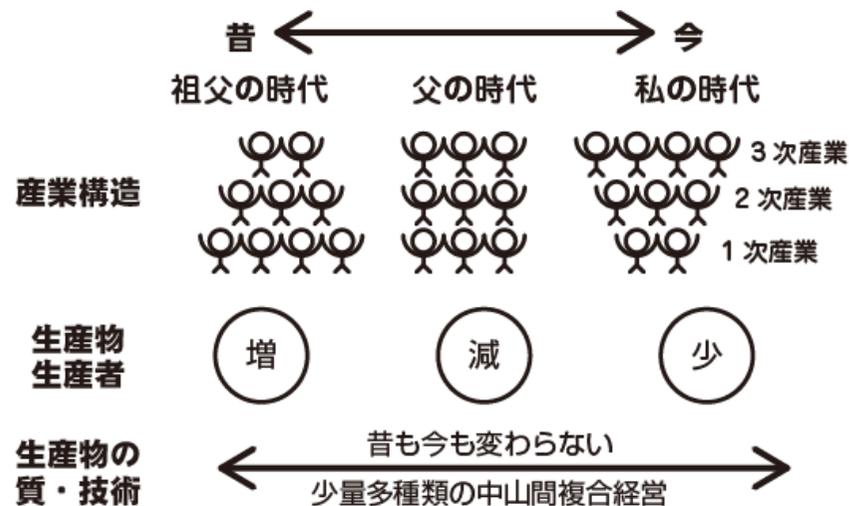
■地域・社会の変化



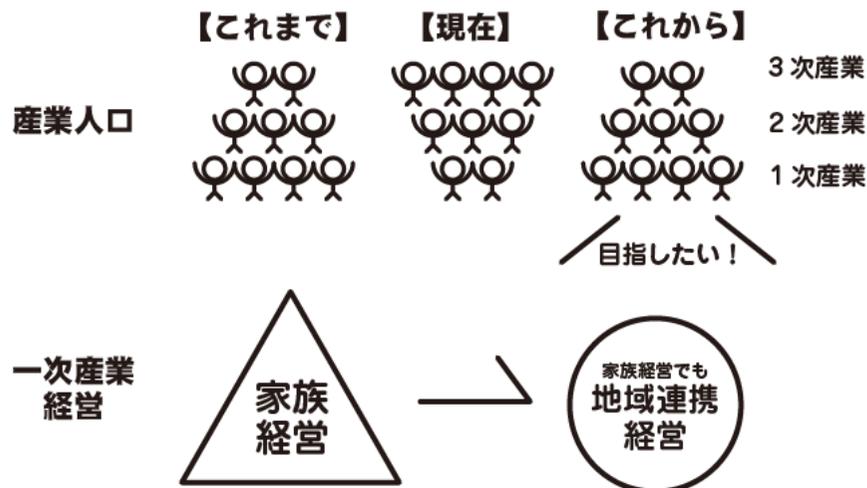
■一次産業の人財育成におけるこれまで・これから

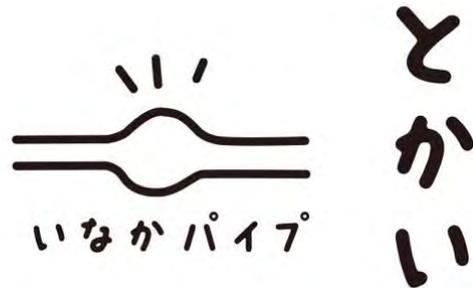


■地域・社会の変化



■一次産業の人財育成におけるこれまで・これから





メンタルヘルスの不調により働けなくなる人たち

過去1年間にメンタルヘルス不調により連続1か月以上休業した労働者又は退職した労働者がいた事業所の割合

区分	事業所計 ¹⁾	(複数回答)			常用労働者計	連続1か月以上休業した労働者 ²⁾	退職した労働者 ²⁾⁽³⁾
		該当する労働者がいた ¹⁾	連続1か月以上休業した労働者がいた ²⁾	退職した労働者がいた ²⁾⁽³⁾			
令和2年	100.0	9.2	7.8	3.7	100.0	0.4	0.1
(事業所規模)							
1,000人以上	100.0	90.3	88.9	64.4	100.0	0.7	0.1
500～999人	100.0	84.0	82.5	47.6	100.0	0.8	0.2
300～499人	100.0	66.9	63.8	27.4	100.0	0.6	0.1
100～299人	100.0	43.8	39.3	15.3	100.0	0.4	0.2
50～99人	100.0	24.5	20.1	8.8	100.0	0.4	0.2
30～49人	100.0	8.4	7.2	3.0	100.0	0.2	0.1
10～29人	100.0	4.2	3.3	2.0	100.0	0.2	0.1
(産業)							
農業、林業(林業に限る。)	100.0	8.1	7.0	3.9	100.0	0.3	0.2
鉱業、採石業、砂利採取業	100.0	4.8	3.2	2.3	100.0	0.3	0.1
建設業	100.0	7.3	6.6	3.0	100.0	0.4	0.1
製造業	100.0	13.7	11.6	5.0	100.0	0.5	0.1
電気・ガス・熱供給・水道業	100.0	21.6	21.6	3.9	100.0	0.8	0.1
情報通信業	100.0	25.7	24.5	12.1	100.0	0.9	0.3
運輸業、郵便業	100.0	35.9	7.8	1.8	100.0	0.3	0.0
卸売業、小売業	100.0	5.7	4.5	2.0	100.0	0.3	0.1
金融業、保険業	100.0	13.9	12.4	4.6	100.0	0.6	0.2
不動産業、物品賃貸業	100.0	8.6	8.3	3.0	100.0	0.5	0.1
学術研究、専門・技術サービス業	100.0	14.8	13.8	4.2	100.0	0.7	0.1
宿泊業、飲食サービス業	100.0	4.1	4.1	2.3	100.0	0.2	0.1
生活関連サービス業、娯楽業	100.0	5.6	5.2	3.8	100.0	0.3	0.2
教育、学習支援業	100.0	11.1	9.6	3.2	100.0	0.4	0.1
医療、福祉	100.0	12.1	9.2	6.1	100.0	0.5	0.3
複合サービス事業	100.0	20.2	17.9	5.3	100.0	0.7	0.1
サービス業(他に分類されないもの)	100.0	11.4	8.0	5.6	100.0	0.3	0.1
平成30年	100.0	10.3	6.7	5.8	100.0	0.4	0.2

出典：厚生労働省 労働安全衛生調査(実態調査)／令和2年度

お金がないことから今の状況を変えられない人たち

メンタル不調の前に、そもそも「お金がない」ことから今の状況を変えることができない人も一定数いて、その経済的な障害を取り除くことも必要。

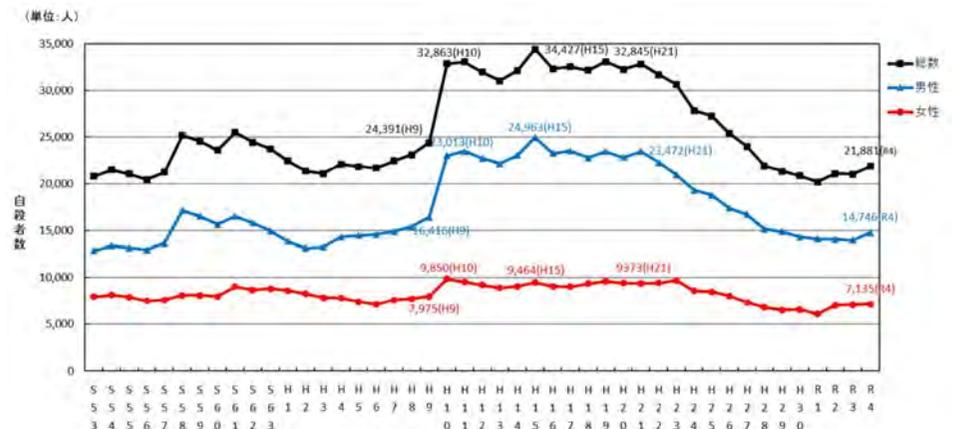
新型コロナの流行した令和2年度から急激に相談件数。人間が多い「とかい」では困窮状態の人が一層多いと考えられる。

支援状況調査集計結果(H27.4～R4.3)											
年度	新規相談受付件数		プラン作成件数		就労支援対象者数		就労者数		増収者数	就労・増収率	
	人口10万人あたり	人口10万人あたり	人口10万人あたり	人口10万人あたり	人口10万人あたり	人口10万人あたり	うち就労支援対象プラン作成者数(2)	うち就労支援対象プラン作成者数(3)		=(2+3)/1	
H27	226,411	14.7	55,570	3.6	28,207	1.8	21,465	-	6,946	-	
H28	222,426	14.5	66,892	4.3	31,970	2.1	25,588	17,836	7,199	4,878	71%
H29	229,685	14.9	71,293	4.6	31,912	2.1	25,332	17,958	6,390	4,414	70%
H30	237,665	15.5	77,265	5.0	33,969	2.2	25,001	16,333	9,031	5,079	63%
R.1	248,398	16.2	79,429	5.2	35,431	2.3	25,212	16,717	8,650	4,890	61%
R.2	786,163	51.4	139,060	9.1	76,100	5.0	20,659	14,502	11,902	5,924	27%
R.3	555,779	36.6	146,719	9.7	79,365	5.2	23,100	17,633	18,052	9,887	35%

出典：厚生労働省 生活困窮者自立支援制度支援状況調査(平成27年4月～令和4年3月)

生きることを選択しない人たちの生む日本社会

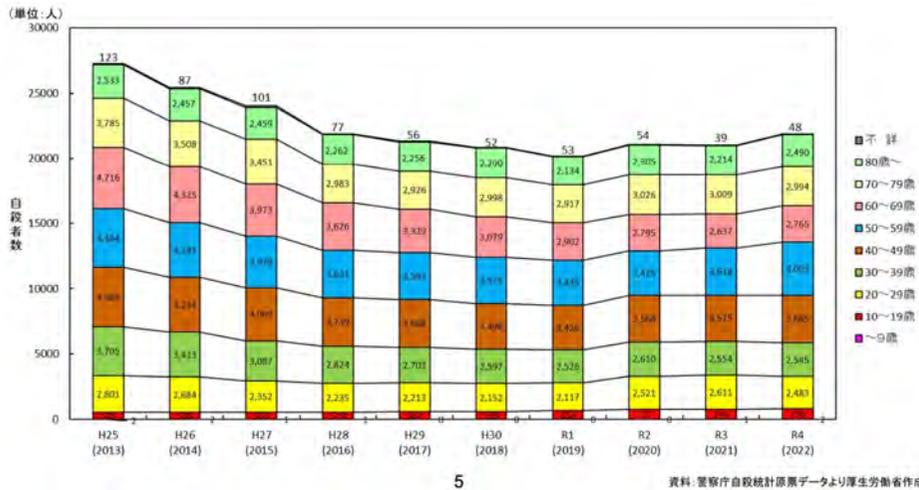
- R4年の日本の自殺者数 21,881人
- 男性が女性より2倍多い



資料：警察庁自殺統計調査データより厚生労働省作成

生きることを選択しない人たちの生む日本社会

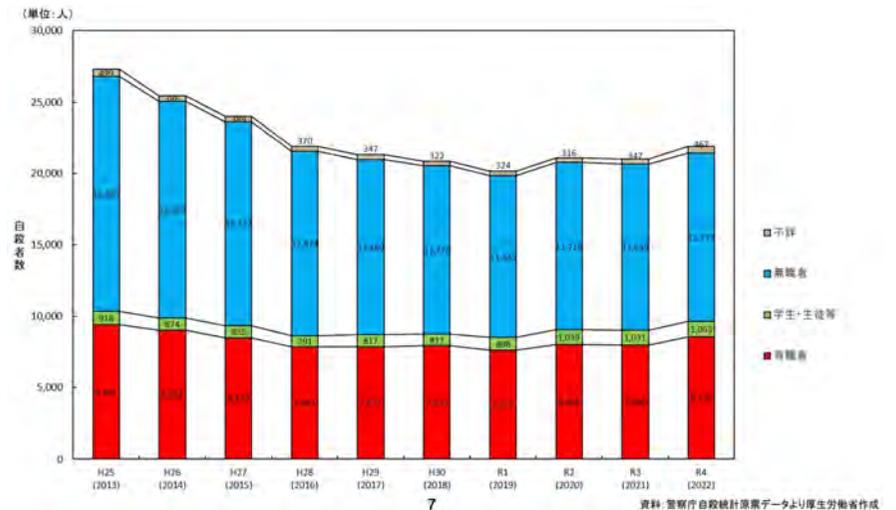
- R4年の日本の自殺者数 21,881人
- その内 10歳～49歳の自殺者数 9,491人



5

生きることを選択しない人たちの生む日本社会

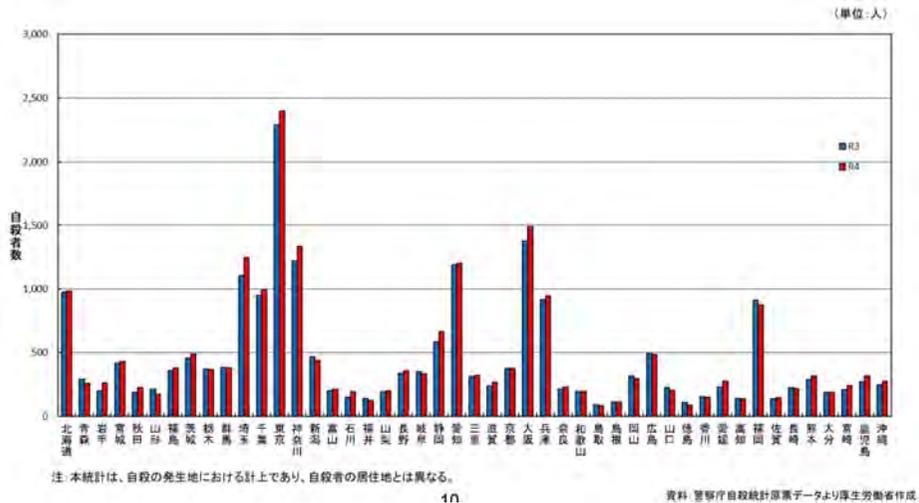
- R4年の日本の自殺者数 21,881人
- その内 無職者の自殺者数 11,775人
- 有職者より無職者の方が多い



7

生きることを選択しない人たちの生む日本社会

- R4年の日本の自殺者数 21,881人
- 1位：東京、2位：大阪、3位：神奈川



10

つながりが必要！
 広域のつながりが必要！
 「いなか」と「とかい」の
 つながりが必要！

いなかととかいのパイプ

「いなかインターンシップ」
「いなかマッチ」

地域産業の
担い手が
いない！

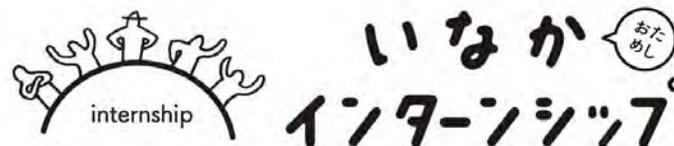


自分にあう
働き方
がない！

いなか

とかい

●29泊30日の人財育成事業



いなかの「住みたい」「働きたい」のお試し研修

いなかインターンシップは、農山漁村をフィールドに「住む」「働く」ことを通じて、人間らしい暮らし方・生き方・働き方をおためしできる研修プログラムです。
現状から前に進めず悩んでいる方や、地方で暮らしたいけれどもできるかな？という方が安心して一歩を踏みだせるよう、一人ひとりに寄りそい、オーダーメイドのコーディネートを行います。
この研修であなたの可能性を広げ自信を持って次の1歩を踏みだせるようサポートします！

いなかビジネス事業者 参加者

【期間：1ヶ月 参加費：あり 報酬：なし 条件：なし】

インターンシップの流れ



初日研修
(1日目)

初日研修 (1日目)

- いなかの実情や、いなかで暮らす際の注意、研修中の心構えやコミュニケーションの取り方など、インターンシップを行う上で重要な項目をワークショップ形式で学びます。
- 研修での目標設定や、希望する地域・派遣先のヒアリング等も行います。



いなかドア
(1~6日目)

いなかドア (1~6日目) 場所：高知県・四万十

決められた予定は毎朝8時に集合してミーティングを行うことだけ。
ミーティングでは「やりたいこと」「困っていること」「何気ない話」を参加者全員でシェアし、その日のスケジュールを決めます。



いなかコミュニケーション研修
(7日目)

いなかコミュニケーション研修 (7日目) 場所：高知県・四万十

「いなか」と「とかい」における違いを理解しながら、いなかで暮らしていくための挨拶や、はなす・きくといったコミュニケーションの基本と本質を学ぶ1日研修。



現場研修
(8~30日目)

インターンシップの流れ



現場研修
(8~30日目)

現場研修 (8~30日目) 派遣先の各地域で実施

- いなか事業者さんの元で、仕事をお手伝いします。
- 派遣先は、ご本人の希望と、受け入れ先企業・団体の都合を調整し、決定します。



いなかライフワークデザイン研修
(半日)

いなかライフワークデザイン研修 (半日) オンラインで実施

- 研修修了を前に、これまでの研修で見えて来た自分らしさと向き合い、今後の人生や仕事をどうつくっていくか一緒に考え、アクションプランをつくる半日のオンライン研修。



修了研修
(30日目)

修了研修 (30日目)

- 1ヶ月の研修を振り返り、今後に生かすための研修を行います。
- 地域や職場が自分に合っていた！働き続けたい！という場合(かつ、研修先企業・団体が承諾した場合)、就労を継続することも可能です。



● 「いなか」の労働者派遣事業



【期間：1ヶ月 参加費：なし 報酬：あり 条件：就職意思必要】

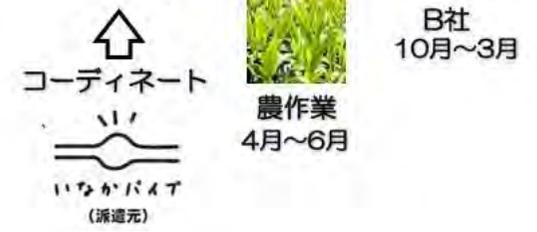
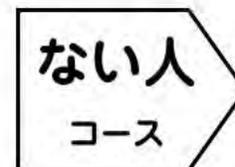


新しい働き方

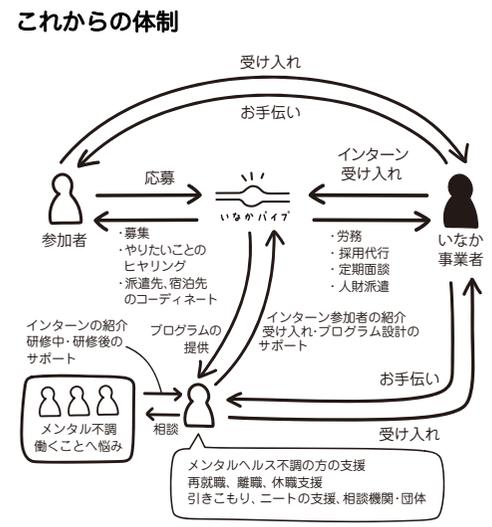
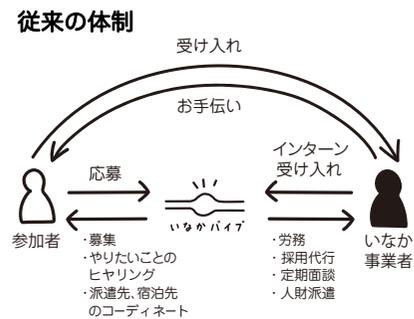
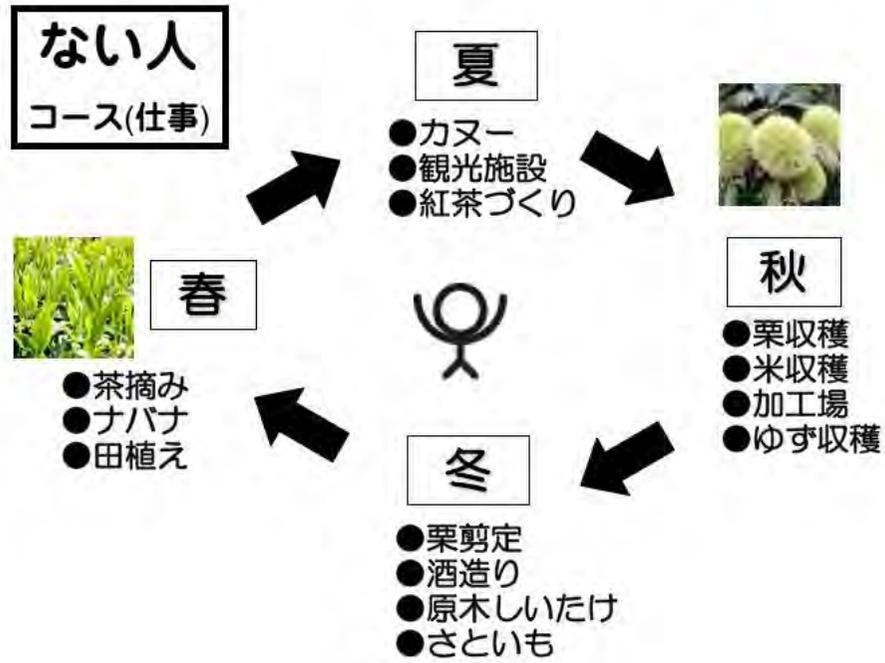
(ない人も)
みんなで



【 チーム主義社会 】



これからの体制



いなかと大学とのパイプ

「マネチャレ！」

大学生が
身近にいない



実践を通じた
マネジメント
の授業がない

いなか

大学

プログラムのねらい

● やってみる&ふりかえる

「マネジメント」を体験しながら学ぶ

● 地域課題にチャレンジする

農山漁村などの地域課題の解決がテーマ

● 地域貢献

地域コミュニティ・地域事業者に貢献する



プログラムのねらい

地域コミュニティの中に入り、
事業展開していくマネージャーに
とって必要なマネジメントスキルの
視点を体感し学ぶ、
実践型育成プログラム

企画づくり合宿



座学講義



企画実施



ふりかえり合宿 成果報告会



いなかとのかいのパイプ

「かそべん」

食・食文化の担い手がいない!

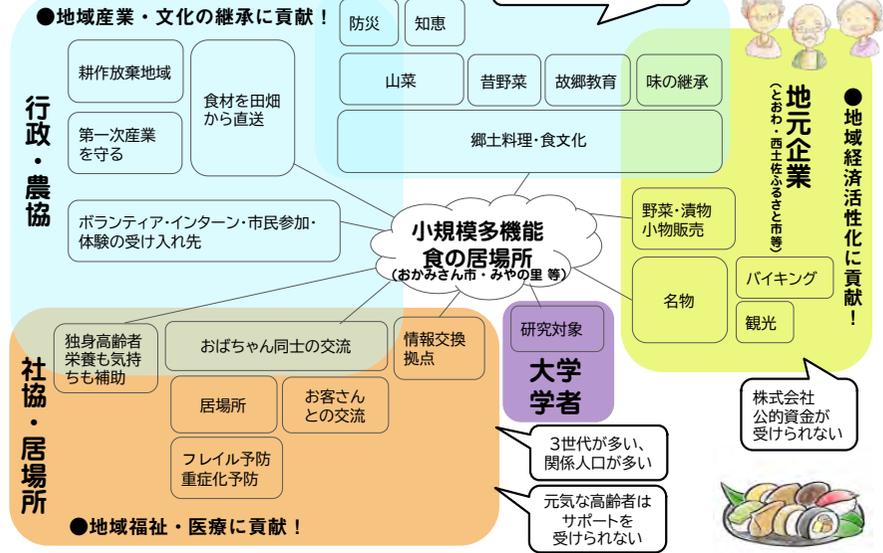
地域伝統料理を食べられない!



いなか

とかい

小規模多機能・食の居場所を中心としたマインドマップ



「かそ(過疎)」とは、くらす人が減り、生活が困難になっていることを指し、過疎化をいいます。地域の人口は、日本全体の63%、その土地に暮らす人は、日本の人口のたご5%です。そんな「かそ」地域で、とつくり続けられているおばあちゃんの手こしらえのお弁当があります。そのお弁当を「かそ」と名付けました。

「かそ(過疎)」とは、くらす人が減り、生活が困難になっていることを指し、過疎化をいいます。地域の人口は、日本全体の63%、その土地に暮らす人は、日本の人口のたご5%です。そんな「かそ」地域で、とつくり続けられているおばあちゃんの手こしらえのお弁当があります。そのお弁当を「かそ」と名付けました。



山や、川や、海が広がって、様々な季節の天然の恵みにあふれています。家の近くには畑があつて、季節に合わせて野菜をうります。昔から伝わる方法を処理して、保存し、美味しく食べるとつても「豊かなかそ」があります。天然の恵みや畑の野菜は、食べきれないほどとれるので、お隣におすわけしたり、加工品にしたり、お弁当にしたりして販売する場所もあります。

山や、川や、海が広がって、様々な季節の天然の恵みにあふれています。家の近くには畑があつて、季節に合わせて野菜をうります。昔から伝わる方法を処理して、保存し、美味しく食べるとつても「豊かなかそ」があります。天然の恵みや畑の野菜は、食べきれないほどとれるので、お隣におすわけしたり、加工品にしたり、お弁当にしたりして販売する場所もあります。

その場所では、おばあちゃんたちが集まって手こしらえたものを買いにきたり、食べにきたりするお客さんとおしゃべりする「お互いの元気の源」となり、ずっと昔から、地域の自慢できるみんなの「拠り所」になっています。

「かそ」とは「過疎」と書き、これは「疎過さる(うとすがる)」と読みます。つまり「かそ」とは、その「豊かなかそ」が知られていない場所といえます。そんな「かそ」の大切なものが、ギョウギョウにまつた場所を「かそ」に暮らすみんなが力を合わせて「かそ」を応援する仕組みづくりとサポートを行なっています。

日本かそん協会はつくりたい人と、食べたい人の人生が重なり、自然と人のやりとりが結晶となつた「食文化」「生活文化」を次の代についでいくために「かそべん」に思いをせて「かそ」と「まち」の「豊かなかそ」のやりとりを応援したい!と、思い立ちました!



日本かそん協会
代表 佐々倉 玲

